

## 愛媛県宇和島市における ニホンモモンガ *Pteromys momonga* の確認記録

古川真理\*・宮本大右\*\*

A record of the Japanese Flying Squirrel *Pteromys momonga* from  
Uwajima City, Ehime Prefecture

FURUKAWA Mari\* and MIYAMOTO Taisuke\*\*

**Key words:** *Pteromys momonga*, Uwajima City, Ehime Prefecture

### はじめに

ニホンモモンガ *Pteromys momonga* (以下, モモンガとする) は齧歯目リス科に属し, 本州, 四国, 九州に分布する日本固有種である(阿部ほか, 2005). 四国における本種の生息情報は少なく, 愛媛県レッドデータブックでは絶滅危惧Ⅱ類(愛媛県貴重野生動植物検討委員会, 2003), 高知県レッドデータブックでは準絶滅危惧種と位置づけられている(高知県レッドデータブック[動物編]編集委員会, 2002).

愛媛県におけるモモンガの生息記録は, 旧新宮村(現四国中央市), 旧広田村(現砥部町), 旧小田町(現内子町), 旧美川村(現久万高原町), 旧面河村(現久万高原町), 旧宇和町(現西予市), 旧肱川町(現大洲市)にあるが(矢野, 2009), 情報数は少なく分布も局所的である. 特に南予地方南部での確実な記録はなく, かるうじて市町村誌に, 「町内の各地に棲んでいる」(松野町, 1974), 「鬼が城山系に生息する」(宇和島市, 2005)とあり, 個体数は, 「多くない」, あるいは「激減」と記載されている.

モモンガは体が小さいことなどから, ムササビ *Petaurista leucogenys* のように目視や音声によっ

て直接観察することが困難であり, 観察や捕獲には巣箱を利用することが現実的である(大久保・安藤, 2005). ここでは, 2006年に愛媛県宇和島市において, 巣箱と自動撮影による調査でモモンガを確認したので, 報告する.

### 調査場所と方法

調査場所は, 愛媛県宇和島市と鬼北町, 高知県四万十市にまたがる鬼が城山系の標高1,030m付近である(図1). ここに, ヤマネ *Glirulus japonicus* とモモンガの生息確認を目的として, 調査地点を3箇所設定し(環境省3次メッシュ4932-6428, 4932-6438), 2002年10月18日から2006年7月2日までの約3年9ヵ月間, 各地点に20個, 合計60個の巣箱を設置して, 約1~3ヵ月に1回の頻度で見回りを行った(図2). 巣箱内に本種のものと思われる巣材を確認した時には, 巣箱に向けてセンサーカメラ(有限会社麻里府商事製 Field Note I)を設置し, 巣箱周辺に現れた動物の写真を撮影した.

調査地付近はブナ *Fagus crenata* を主体とする落葉樹林が広がる環境で, ブナが優先し, アカガシ *Quercus acuta*, ヒメシャラ *Stewartia*

\*〒769-2321 さぬき市寒川町石田東甲372  
372 Kou, Ishidahigashi, Sangawa-cho, Sanuki, 769-2321 Japan

\*\*ネイチャー企画

〒798-0027 宇和島市柿原349番地

NATURE KIKAKU Wildlife Research Office, 349 Kakihara, Uwajima, 798-0027 Japan

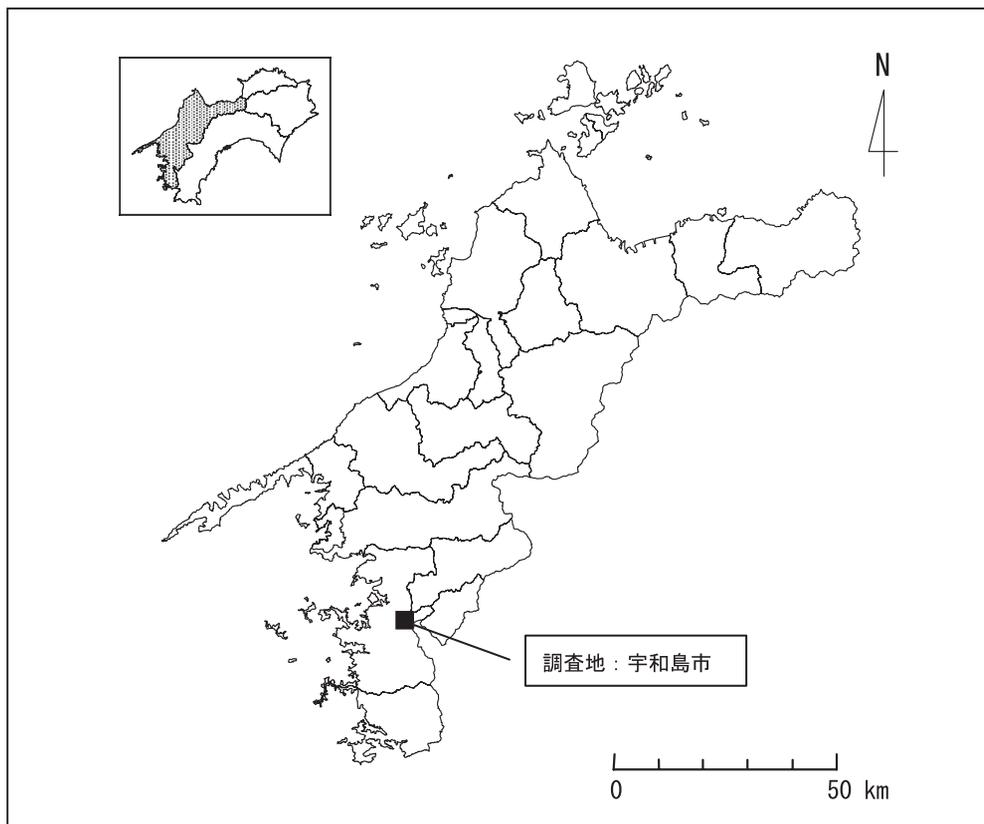


図1．調査場所．

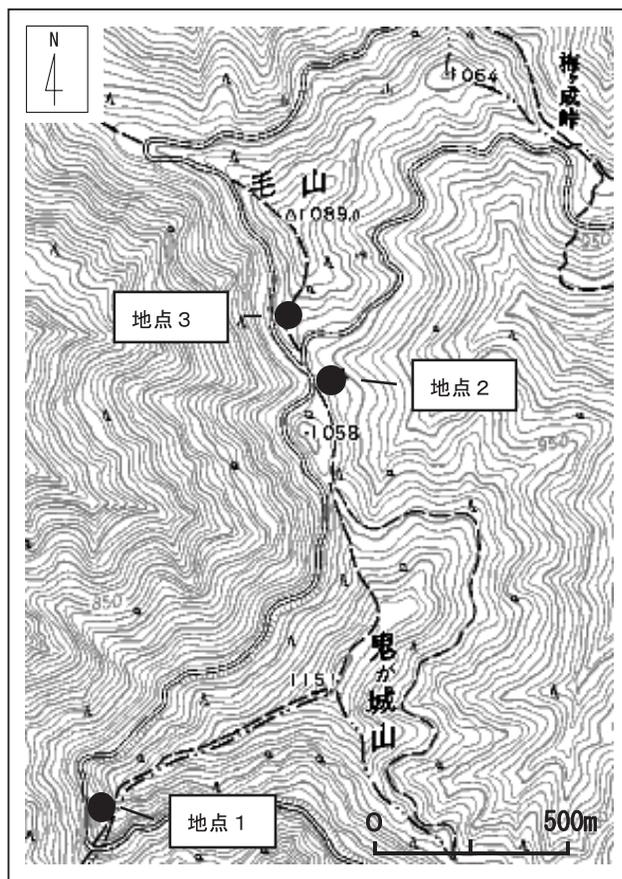


図2．調査地点．

*monadelpha*, カエデ類などの高木, ツクシシャク ナゲ *Rhododendron japonoheptamerum*, シラキ *Sapium japonicum*, オンツツジ *Rhododendron weyrichii*, シロモジ *Lindera triloba* などの低木が混生する．林床にはツルシキミ *Skimmia japonica* が群生し, 南側の疎林内にはミヤコザサ *Sasa nipponica* が広がる (宇和島市, 2005) (文化庁, 1973)．

調査地点の植生は, 地点1: プナを主体とする落葉広葉樹林, 地点2: 落葉広葉樹と常緑広葉樹の混交林, 地点3: 落葉広葉樹, 常緑広葉樹の交じるスギ *Cryptomeria japonica* 林であった．

巣箱は大きさの違う2種類で, 1地点に, 大10個, 小10個, 計20個を設置した．それぞれの大きさは, 大が縦15cm×横15cm×高さ20cm, 小が縦10cm×横10cm×高さ16cm, 入口の径は大・小とも直径3.2cmとした．巣箱上部は, 点検用に跳ね上げ開閉式とした．設置の高さは, 1～1.5mとした．

#### 結果と考察

地点2において, 2003年には巣箱小に, 2004年には巣箱大・小の両方にモモンガのものと思われる



図3．撮影されたニホンモモンガ．

る巣材を確認し、センサーカメラを設置したが、撮影には至らず種の確定はできなかった。その後も見回りを続けたところ、2006年6月11日に巣箱大の中に巣材を確認した。巣材はスギの樹皮を裂いたもので、一週間前の6月5日に点検に訪れた時にはなかった新しい痕跡であった。早速11日、巣箱の入り口に向けてセンサーカメラを設置したところ、カメラを回収する7月2日までの22日間に、6夜、述べ9枚のモモンガが撮影された（図3）。

2003年、2004年に種確定まで至らなかった巣材は、2006年にモモンガと確定されたものと同様のものだったため、モモンガのものであったと推測されるが、これらが同一個体かどうかは不明である。なお、巣材を確認したのは全て地点2であり、巣箱は大小とも利用されていた。

巣箱の利用ではないが、2006年にモモンガの巣材の入った巣箱周辺をねらったセンサーカメラには、テン *Martes melampus* が写っていた（図4）。2006年6月15日の夜、巣箱設置木に登って巣箱の方を覗き込むような姿が撮影されている。モモンガは、テンが写った15日の前後にも撮影されており（13日、17日）、テンの出現がモモンガに影響を与えたかどうかは不明である。

#### 今後の課題

愛媛県では現在の時点で、モモンガの情報は高標高地域に多いことから、どのくらい低標高の地域まで生息しているのか、という点は興味深い。また、季節による利用地域の変化の有無についても興味をもたれるところである。



図4．撮影されたテン．

もう一つの調査対象種だったヤマネについては、今回の調査では生息を確認することができなかった。今後、巣箱設置場所や環境、巣箱の構造自体の再考、また巣箱以外の調査法の検討が必要と考えている。

#### 引用文献

- 阿部 永・石井信夫・伊藤徹魯・金子之史・前田喜四雄・三浦慎吾・米田政明．2005．日本の哺乳類〔改訂版〕．東海大学出版会，神奈川，266pp．
- 文化庁．1973．天然記念物緊急調査植生図・主要動植物地図 愛媛県．
- 愛媛県貴重野生動植物検討委員会（編）．2003．ホンダモモンガ．愛媛県レッドデータブック—愛媛県の絶滅のおそれのある野生生物—．愛媛県県民環境部環境局自然保護課，愛媛，32pp．
- 国土交通省四国地方整備局．2006．山鳥坂ダム周辺の環境，国土交通省四国地方整備局．香川，928-929pp．
- 高知県レッドデータブック〔動物編〕編集委員会（編）．2002．高知県レッドデータブック—高知県の絶滅のおそれのある野生動物—．高知県文化環境部環境保全課，高知，420pp．
- 松野町．1974．松野町誌，89pp．
- 大久保慶信・安藤元一．2005．ニホンモモンガの巣箱高に関する嗜好．リスとムササビ，16：9-11．
- 宇和島市．2005．自然環境（生物）．宇和島市誌，191-321pp．

愛媛県宇和島市におけるニホンモモンガ *Pteromys momonga* の確認記録

山本栄治・土居雅恵．2000．ホンドモモンガ．小田深山の自然 I ，310-311 ．

矢野真志．2008．面河山岳博物館周辺におけるニホンモモンガ *Pteromys momonga* の記録．面河山岳博物館研究報告，3：29-32 ．

矢野真志．2009．愛媛県におけるニホンモモンガ *Pteromys momonga* の生息記録．リスとムササビ，22：2-8 ．

(原稿受理 2010年3月31日)